

令和4年度 学校自己評価表

中長期ビジョン (学校ビジョン)	1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する
---------------------	---

今年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の確立	3 ふるさとキャリア教育の推進	5 業務改善の取組
	2 基礎学力の向上	4 地域との連携と情報発信	

年度当初					評価結果(2)月		
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的な生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 家庭連絡を適宜行い家庭と連携し、頭髪服装指導に努めた 昨年度と比較して遅刻者が5%、減少している 「分離礼」については、定着しつつある。「静止礼」の定着が不十分な面がある 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に、基本的な生活習慣の確立に取り組める 遅刻総数を昨年度より10%減少させる 「分離礼」「静止礼」を習慣化する 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装指導の回数の見直しを図り、生徒に主体的に考えさせる意識を持たせる 問題行動には、保護者や関係機関との連携を密にし、生徒の成長につながる粘り強い指導を行う 遅刻指導のルールを職員間で確認し、引き続き粘り強く取り組む 始・終業時での挨拶を徹底し、教職員自ら模範を示し、「分離礼」「静止礼」を定着させる 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装指導において、今年度から指導回数を減らし生徒が守りやすいように変更したが、一部の生徒は守っていない 問題行動の対応については、各学年・分掌と連携して指導・対応したが、繰り返す生徒があった 遅刻者数については2、3年生は昨年度より減少しているが、1年生は増加した。全体では昨年度比40%減となった 「分離礼」「静止礼」は徹底できているクラスもあるが、しっかりと定着はしていない面もある。引き続き各授業等で指導する必要がある 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から身だしなみを整える大切さを説明し、「進路にふさわしい頭髪・服装」について理解させ、自ら意識して身形を整えられるように粘り強く指導する 問題行動に対する指導については、問題点をしっかりと理解させ、保護者とも連携し繰り返さないよう指導する 授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、日頃から「自ら挨拶をする」習慣が身につくよう指導する 生徒会執行部や各部活動とも連携し、挨拶運動を推進する
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の学年会や各分掌と適宜情報交換を行い、生徒情報が共有され、生徒理解に努めた 教育支援が必要な生徒については、分掌の枠を越え連携し、一丸となって生徒対応をしている 朝読書の達成率が目標の96%には達しなかったが、前年度より微増した。本の貸し出し冊数は増加した 各種人権に関する実態調査(全学年)を実施し、その結果を踏まえ、いじめ防止LHR等を行った コロナ禍に対応しリモートでの開催も含め、各種の生徒会行事を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、きめ細かな指導を行う ホームルーム活動を通して、円滑な友人関係を育成する 朝読書の達成率を全学年96%を目指す 人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりを行う 部活動も含め生徒会活動を充実させ、学校生活での満足度をアップする 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での連携を密にし、生徒情報を共有し、問題の早期発見、早期解決に努める いじめアンケートやハイパーQを最大限に活用し、面談や情報共有を行い、生徒理解に努める 職員間での人権意識と共通理解を高めながら、全教員で連携し、生徒へ人権意識の向上に向けての指導に取り組む コロナ禍に対応した部活動や生徒会活動を引き続き継続的に実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 月一回の学年会において、生徒の情報を共有できた。しかし、コロナ禍での新たな局面や多様な生徒の状況に即時に対応しなければならぬ場面が多く、混乱が生じることがあった いじめ等の問題が発生した時、各分掌と協力しながら解決することができた 人権教育職員研修をテーマに沿って2回実施した。人権教育LHRも各学年団・各担任の創意工夫が生かされたものになった 生徒会でハッピーケイタイ境総合6ヶ条の改変を行い、高校生県議会でもこの活動報告を行った 朝読書達成率88.9%となり、前年度より下降した。目標値に達成できなかったが、第2学年は97.8%と成果が現れた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年団や各分掌との連携を密接にし、生徒の情報収集を図るとともに、ハイパーQUを活用し面談等を適宜行いチームとして素早く対応する 基本的な生活習慣を見直し、自尊感情を高めつつ、「偏見」や「差別」に気づける生徒を育成していく 今一度行事の見直しを行い、伝統の継承と進化を引き続き検討し、魅力あるものを追求していく
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎学力が徐々に向上している 生徒が主体となる授業作りに向け、指導者のICT機器の活用方法の研修に取り組んだ 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、学びに向かう姿勢を育成する マナトレや補習等を充実し、基礎学力の定着と向上に努める ICT活用の校内研修や研究授業を増やし、授業力の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一台端末導入に対応し、生徒が主体となる学びやすい授業作りに向け、ICT機器の活用を更に推進する 今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努める 生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講する 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一台端末導入に伴い、継続的に職員研修を実施し、教員の授業力向上に取り組んだ マナトレは計画的に取り組み、基礎力診断テストの結果に少しずつ表れてきた。実施の効果は出てきているが、検証の必要がある 開催中止となった研修もあったが、各種研修に参加し、授業改善に役立てた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援が必要な生徒については、分掌の枠を越えて生徒に対応する マナトレについては効果の検証を行い、生徒自身が効果を実感できるよう、今後の実施の在り方を検討していく 引き続き各種研修会を効果的に活用し、授業改善に役立てる
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	<ul style="list-style-type: none"> 4級海技士(航海)3名合格、1級小型船舶操縦士10名、スーパー水産農林業士3名取得 自動車整備士登録試験、15名全員合格 第1種電気工事士2名合格、第2種電気工事士16名合格 福祉科介護福祉士国家資格22名合格。10年連続合格率100%達成 地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 時代にマッチした専門教育を深化する 将来のスペシャリストの育成を目指す 資格・検定試験の合格率を向上する 各科の連携を密にし、総合技術フェア・課題研究発表会での学習成果発表会を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> 専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す 専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> 各科とも専門的な社会人講師の招聘や実習施設との連携を行い、各専門科に応じた効果的な学習指導が実施できた 放課後や長期休業中に資格取得に関する講習を実施し、生徒の学習意欲や進路意識の向上につながった 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き多くの社会人講師の授業を実施し、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導を行う 合格することで生徒が自信をつけ、生徒の自己肯定感を養うため、引き続き講習を継続的にを行い、100%合格を目指すとともに、合格者が増えるよう取り組んでいく
3 ふるさとキャリア教育の推進	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートでは、生徒が理解し易いよう表現等を変更し、学期の振り返りや課題研究の取組等の記入ができた コロナ禍ではあったが、全ての科でインターンシップを実施し、経験値の向上につなげた 就職者の1次内定者が91%であった 保護者と生徒を対象とした「内航船員の仕事説明会」を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導計画に基づいた指導を徹底する キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導を行う 進路ガイダンス、保護者説明会の充実を図る インターンシップにより職業観・勤労観を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の体験的学習活動を増やし、経験値の増加につなげる キャリアパスポートの見直しを更に推進し、ふるさとキャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識の向上につなげる コロナ禍に対応したりリモートによる職場見学や研修なども取り入れ、生徒の学びの機会を保障する 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より進学希望者が多く、多様な受験形態・時期に対応し、受験指導を行った。また、就職指導についても、生徒状況に応じた個別の指導に取り組んだ キャリアパスポートについては計画的に取り組んだが、活動前の事前記入ができず、実施後の振り返り中心の指導になってしまった 職場体験、介護実習は、それぞれ日程を検討し実施することができた。生徒アンケートからは「実際の職場の様子がよく分かった」「職業選択に役立つ」「コミュニケーションの大切さを知った」という声が多くみられた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒状況や社会情勢に応じ、適切な進路指導に心掛ける。また、進学についても入試の多様化・長期化に対応し、指導の研究を進める 今後も状況に応じた適切な時期での体験的学習活動を実施し、進路選択に活かすとともに、企業との連携を深め、個々の生徒に合ったきめ細かな指導・体験へとつなげる キャリアパスポートは、改善すべき事項が残っており、さらに内容を検討していく
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で総合技術フェアは地域への公開が2年連続できなかったが、食品・ビジネス科の新巻鮭販売では感染予防対策を徹底して販売活動を実施し、福祉科のポカポカコンサートではオンライン配信をするなど、できるやり方で、事業の継続に努めた 学校独自事業については、鳥取県立学校版感染症予防ガイドラインに則り、感染予防対策を検討し実施したが、海洋科の国際航海など、一部の事業で実施できないものもあった 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携・地域交流活動を通して、生徒に自信を持たせ経験値を上げ、役立ち感、有用感を育む 地域基幹産業の発展に寄与できる人材を育成する 手話を学ぶことを通して、障がいに対する理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を踏まえ、感染予防対策を徹底し、地域に出かける活動など地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を行う ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う 学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や各専門実習、交流学習を感染予防対策に努めながら実施することができた。総合技術フェアも実施方法の工夫で3年ぶりに来場者を招いて実施ができ、生徒にとってより良い学習の場となり、地域貢献活動にもつながった 余子駅の清掃活動や通学路清掃などのボランティア活動や高齢者施設等での交流活動が、思うように出来ていない 余子公民館へのボランティア活動・あまりこ保育園との合同避難訓練・さかい幸朋苑への介護実習など連携した活動を実施した 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域や学校、生徒にとって有用ないイベントには積極的に参加し、地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を継続的に行っていく
	学校教育活動の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 実習や行事等、マスコミへの情報提供を迅速に行っている 各科、学年、分掌等の実習や行事等を開催ごとにホームページに掲載し更新した 	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解を深める ホームページによる情報発信の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、マスコミへの迅速な情報提供やホームページの更新等、迅速な情報発信に努める 	<ul style="list-style-type: none"> クラスルーム・マチコミメール等を活用し迅速な情報提供に努めた 公式インスタグラムを6月下旬に開設し、タイムリーな情報発信を行った。使い方については周知の徹底ができなかった部分があった 入学案内パンフレットを増ページし、各科の内容をより詳しく紹介できるようにした 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者・マスコミ等、方法や機会を工夫し、引き続き、的確な情報発信に努める。インスタグラムについては多方面で活用できるよう入力方法を検討する
5 業務改善の取組	学校業務の精選と効率化	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響はあったが、職員間の情報交換を密にし、会議の時間が短縮できた 	<ul style="list-style-type: none"> 会議・委員会の業務を見直し、整理、統廃合を図る 各会議は内容を精選し、時間短縮に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 会議資料を事前に配布し、内容等を把握する 協議、連絡・報告は、前もって関係分掌と話し合い、必要最小限にとどめる 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議資料を職員の手元での配信とし、準備時間の短縮・会議の効率化を図った 朝の打ち合わせ時間を効果的に活用し、学年会の効率化を図った 	B	<ul style="list-style-type: none"> 会議資料の事前配布や、関係分掌との事前打ち合わせ等を密にし、会議の時間短縮を図る
	長時間勤務者の解消	<ul style="list-style-type: none"> 「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行った 時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とすることが、ほとんどできている 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務を月45時間以内とする 時間外勤務を年360時間以内とする 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う 時間外勤務についての意識を高め、各自適切な時間管理に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動は予定表、実績表で休養日、活動時間を把握し、活動時間の厳守に努めた コロナ対応、生徒指導対応等では可能な限り担任団で協力分担し、時間外業務削減に取り組んだ 	B	<ul style="list-style-type: none"> 業務を各分掌や各教科、各科で分担し、時間外業務を削減する必要があるが、削減困難なものもある